

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-18

学校名・団体名	学校法人成蹊学園 成蹊小学校社会科部
HPアドレス	http://elementary.seikei.ac.jp/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	観光人材育成のための社会科・総合学習シンポジウム
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本研究では、観光学習を小中高等学校で展開していくために、とりわけ社会科教育や総合学習に関する多くの有識者や教育関係者と、その可能性や有効性についてシンポジウムを通して広く議論を交わしていくことを目的としている。観光教育の方法論や教材開発の事例を、参加者と深めていくことで、小学校教育からの観光教育の進展に寄与すること、さらには、観光授業と呼ばれるジャンルの確立に向けて地理教育界が主導的な立場で発信していくことを目指していきたい。</p>	

(活動時期・内容)

2015年9月…シンポジウム準備委員会を成蹊小学校社会科部内に組織し、会の運営についてや講演者及びパネリスト等の人選を含めた開催計画を立てた。10月…東京私立初等学校協会社会科研究部へ協賛の協力と、日本地理教育学会の後援協力依頼を出した。また、シンポジウムの発表者決定後に、要項集の執筆を依頼した。同時期に、シンポジウムのチラシを関東の私立小学校から大学、出版社に配布したり、研究会情報をホームページ等に掲載したりするなど開催の広報活動を行った。11月…準備委員会でシンポジウムの内容・進行方法等について協議を行った。12月…シンポジウム要項集が完成し、会を開催するに至った(詳細は下記の通り)。2016年1~2月…私立小学校や各教育機関にシンポジウムの要項集を寄贈した。

(シンポジウムの内容) 研究会テーマ：地理教育からの観光人材育成を考える

2015年12月19日(土) 会場：成蹊小学校けやきホール 総合司会：荒井正剛氏(東京学芸大学教授) 各学校の学期末と重なったため、参加者は延べ40名弱であったが、小学校の教員のみならず、中高教員、大学の研究者、教育出版関係者から参加をいただき、様々な分野から意見交換を行うことができた。

●基調講演 13時10分~14時30分

菊地俊夫(首都大学東京都市環境学部教授)「観光から地域を学ぶ、地域から観光をつくる」

●授業実践報告 14時40分~15時40分

内川 健(成蹊小学校)「子どもが観光を楽しむためには一観光と情報の授業実践から考える」

寺本 潔(玉川大学教育学部教授)「沖縄県の小学生が考えた観光滞在プログラムと世界遺産中城城の学び」

高嶋竜平(法政大学女子高等学校)「法政大学女子高等学校の特徴高等学校普通科における観光教育の実践報告~法政大学女子高等学校「旅する人の観光学」の取り組みについて~」

●シンポジウム 15時50分~16時50分 「観光の授業づくり—その魅力と方法—」

コーディネーター 寺本 潔(玉川大学教育学部教授)

パネリスト 森下晶美(東洋大学国際地域学部准教授)「観光の授業づくり—その魅力と方法—」

田部俊充(日本女子大学人間社会学部教授)「地理教育からの観光人材育成を考える—「教育観光」(スタディー・ツアー)の授業づくり(スウェーデン・浅草)—」

若林廣美(東京都台東区立根岸小学校)第6学年 根岸ドリームタイム活動報告「伝えよう!日本の宝」~上野の山を日本の宝に! 地域の宝を全国に発信!!

(発表者の報告内容について)

講演者の菊池氏は、観光資源の有効活用が地域振興において必要不可欠であり、今後はそれぞれの地域を連携させるジオストーリーをもたせた観光資源の活用が、地域の活性化に有効になると指摘し、教育界においても、観光を基盤とした地域学習の教材化は有効であると報告した。実践報告では、内川氏より小学校5年生における社会科の情報単元学習の実践報告があり、社会科の授業で観光をテーマとした学習は、子ども達の興味関心を喚起して、より楽しく面白さをもった学びとして展開できると報告した。寺本氏は、沖縄県の小学校で取り組んだ「観光滞在プログラム」について発表した。小学校4年生の3学期に、社会科の授業でよく扱われる単元「わたしたちの県のまちづくり」を観光教育の視点に立ち、その単元をアレンジして、より魅力的な授業が展開できることを報告した。高嶋氏は、高等学校での実践例を取り上げ、生徒の観光経験を学習活動に結びつけ、社会事象や研究活動への関心を高める学習を展開していく実践報告と学びの価値について報告した。

シンポジウムでは、コーディネーターの寺本氏より、観光人材育成のために、社会科が持つ訴求力を発信していくことの重要性について提案があり、シンポジストからそのことを踏まえた実践報告・提案がなされた。森下氏は、観光学を学ぶ大学生の事例として、ゼミ活動で行われている旅行者マーケット及び観光地の現状に関する調査や、商品企画を考えプレゼンテーションとハワイ研修の実際について報告をした。田部氏は、地理教育からの観光人材育成の観点で、「大学における人材育成プロジェクトと観光の授業づくり」と「社会科観光授業の実践事例を基にして、「教育観光」(スタディー・ツアー)による観光教育の推進の視点について報告した。若林氏は、小学校6年生の総合的な学習の時間における外国人留学生に上野の山の魅力を伝える活動の様子を報告した。質疑応答も活発に出され、予定時間を超過しての閉会となった。

(研究の成果と今後の課題)

観光教育に関心をもつ方々に参加していただけたことで、多くの成果が生まれた。その成果としては以下の2点挙げられる。一つは、観光教育の授業実践の共有化である。さまざまな職種・校種から、観光教育の実践を行っている教員、関心のある教育関係者が集まり、会の中で活発的な提案や問題提起が行われたことで、参加者に多くの学びの共有化があった。2点目は、観光教育推進に向けた情報発信ができたことである。本研究会を通じて、観光教育の具体的な実践例を提案することができたことは、今後の発展的な授業づくりや可能性を生み出す会とつながったと捉えられる。関心をもつ教育関係者に、どのような授業ができるのか、どのような方法が考えられるかを示唆できたと考えている。今後も社会科教育・地理教育が先導しつつ、観光教育をリードしていく役割に寄与できるように研究を行っていきたいと考えている。